

平成 31 年度「AO・指定校・公募推薦入試」についての 緊急アンケート（平成 31 年度 3 月現在）に関する調査

<調査概要>

- 株式会社ケーホウでは、高校進路担当者を対象に平成 31 年度「AO・指定校・公募推薦」についてを中心に調査した。調査項目は 1. AO・推薦入試の状況と今後について、2. どの様な大学の入試が難化したのか、3. 今後の入試はどの様になるのか等について平成 31 年 3 月現在の状況を取りまとめた。
- 上記内容に加え、学びの「基礎診断」、JAPAN e-portfolio さらにアクティブ・ラーニングについても調査を行い、現状の社会状況から今後求められる内容についてを調査・取りまとめを行った。

<調査内容>

- ① 調査対象 近畿 2 府 4 県の公立・私立高校
- ② 調査依頼校数 調査協力校数 108 校
- ③ 調査項目
 - 【1】平成 31 年度「AO・指定校推薦・公募推薦入試」の現状と今後について
 - 【2】学びの「基礎診断」の現状と今後について
 - 【3】現場で実践しているアクティブ・ラーニングの現状と今後について
 - 【4】JAPAN e-portfolio もしくはそれに準ずる人物評価の現状と今後について

<結果の概要>

受験難化を不安視し、安全志向へと向かう今の受験生！

- 受験大学のランクを下げて受験を行った受験生多数
 - ⇒ 産近甲龍→摂神追桃：43.2%、摂神追桃→そのほか大学：40.5%
- 入試方式の変更から見える受験生の安全志向
 - ⇒ 公募推薦→AO・指定校推薦：38.9%、一般入試→AO・指定校推薦：27.8%

変化する AO 入試！受験困難と感じた高校 2 割を超える

- AO 入試の多様化が進み、「人物評価を重視する大学の増加」・「基礎学力を問う大学の増加」相次ぐ

指定校推薦入試にも学力試験を導入！

- 指定校推薦入試に「民間英語試験」・「JAPAN e-portfolio の提出」のみならず、「基礎学力を問う」と明言した大学も！今後の難化が予想される指定校推薦入試！

公募推薦入試を「難しい」と感じた高校は 7 割を超える！

- 近大は今年も難化。合格最低点が 8 割 5 分を超える学部も
- 安全校から離脱！摂神追桃以下の大学も公募推薦入試では難化し、合格最低点が 60 点以上上がる大学も

アクティブ・ラーニング実施を阻む「時間の制約」と「実施内容」への課題！

- アクティブ・ラーニング実施に際して最も困っている点について「時間がない」との回答 4 割
- 実施内容が「教員任せ」となっており「学校全体の取組」となっていないとの回答約 3 割

記載に悩む「人物評価」！教員にのしかかる業務負担！

- portfolio 取組にあたり「記載内容に困る」との回答：約 3 割
- 記載内容を教員が管理する高校 5 割を超え、「実施の時間がない」との声も

調査内容の詳細につきましては(株)ケーホウ (06-6271-3275) までお問い合わせ下さい。